

第3回広島都市圏バス活性化推進会議の開催概要について

1 日時

平成26年9月2日（火） 10:00～12:00

2 場所

広島市まちづくり市民交流プラザ 南棟3階 会議室AB

3 出席者（学識経験者4名、利用者代表3名、交通事業者7名、関係行政機関3名）

委員17名中14名出席

4 主な会議内容

第2回バス活性化推進会議における委員意見への対応状況

今後のスケジュール

広島都市圏バス活性化基本計画の骨子案

（説明資料は、別冊のとおり）

5 委員からの主な意見

ア 今後人口減少に向かう時代において、20年先を推測するというのはありえない。それよりも、3年や5年といった期間でネットワークを見直していけるよう、PDCA（Plan（計画）-Do（実行）-Check（評価）-Action（改善））をうまく動かしていける仕組みを構築しておく方が良い。

イ PDCAをまわしていくにあたって、全体としての目標を立て、そこを目指して行くようにするべきかと思う。

ウ 利用促進策について、時刻表などをわかりやすくするというのはいつでもできることである。また、運転手のマナー向上について言及されているが、携帯電話をはじめとした利用者のマナーの問題もある。

エ 人口が減少していく中、このままいくと広島県内のバスはどうなってしまうのかといったことを、市民に示すことができれば危機感を持ってもらえるのではないかと。将来の姿がイメージできるものがあると良いのではないかとと思う。

オ 広島バスは「わかりにくい・乗りにくい」とよく言われており、バス協会では現在、系統番号の統一や、観光や特定のエリアに特化した路線図などについて検討するとともに、中心部の商業施設との連携も検討している。

カ 交通政策基本法の中でもタクシーは公共交通という位置付けになっており、今後、地域公共交通網形成計画に移行する際には、バスの計画をそのまま移行するのではなく、タクシーについても書き込んでいく必要があるのではないかと。

キ それぞれの事業者は日々改善の取組みを行っており、この会議では、それぞれの事業者がやろうと思っても単独ではできないようなことを徹底的に議論し、優先的にやっていくものである。

ク 余った資源で今サービスのないところを運営するという必要だと思うが、時間的な配分も考えられると思っており、朝に集中しているところを深夜バスなどに振り分けることができるのではないかと。

ケ 全ての問題を交通政策で解決する必要はなく、都市計画や住宅政策、福祉政策といったものを総合的に考え、限られた財源をうまく使うことを考えるべきである。